

第22回東日本事例研究オンライン研修会 発表概要シート

法人名	株式会社ハイメディック	施設名	トラストガーデン東嶺町
発表タイトル	可能性を信じて		
研究の目的	入居時の状態にショックを受けたご家族のご要望をかなえ、以前のように一家の大黒柱として輝いていただくため		
発表の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・車イスへの離床時間を伸ばしていくための取り組み ・「うん。」だけではなく、いろいろな言葉を発する事ができるための取り組み ・口腔ケアの統一を行い、口腔衛生の改善と、口の筋力向上についての取り組み ・発語のカードの作成から好き嫌いの質問形式に統一した取り組み ・童謡など簡単な歌の練習についての取り組みなどを行い、利用者のADLの向上や、表情の変化、発語の変化について報告。 		
研究方法	<ul style="list-style-type: none"> ・機能訓練士の指導のもと、ベッド上でのポジショニング、リビングでの姿勢保持 ・理学療法士による可動域訓練 ・言語聴覚士から助言をうけ親しみある言葉のカードを作成し、発声の練習 ・ペンの受け渡しリハビリ ・要因解析 ・周知（動画共有）実施、 ・効果確認（修正しながら） 		
成果・結果	<ul style="list-style-type: none"> ・右肩関節と右股関節可動域が向上 肩関節外転 右50° → 右65° 左80° → 左110° 股関節屈曲 右55° → 右95° 左95° → 左85° 足関節背屈 右-35°左-40° → 現状維持 足関節底屈 右40° 左45° → 現状維持 ・車椅子のリクライニングを上げ、フットレストを外し、安定した姿勢で過ごせるようになった。 ・30分が限界だった離床も2時間になり、面会の際やイベントにも無理なく参加していただけるようになった。 ・口腔衛生の改善と、口の筋力向上により、答えやすい質問には返事をして頂けるようになった ・「はい」っとお声掛けすると、声が出る事が増えてきた。さらには童謡の1小節を歌われるまでになった。 ・「はい」や「やだ」など意思表示をされたり、「ありがとう」や「おめでとう」と返答される事もある。 ・介助の際、腰や腕を上げてくださるなど、ADLの向上 ・かぶっていた帽子が膝におちると拾われたり、歌詞カードを受け取るといった成果 ・茅葺き屋根の家に家族と一緒に帰る（3時間に及ぶ一時帰宅） ・他職種との連携強化 ・介護職間のあいまいになっていた情報の再共有 		
考察	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日のケア継続していくことで、想定した以上の効果に繋がった。 ・利用者の表に出せない希望や想いをいかに汲み取っていくか考え続けることが大切。 ・記録ベースの情報共有だけでは伝わらない事があり、改めて直接伝える事の大事さを認識した。 		
アピールポイント 伝えたいこと	考察で述べた事に加え、返答が「うん」のみだった利用者が、様々な方向から関わる事で、ご自身の気持ちを出されるまでになったこと、歌を歌われるまでになったこと。		